

柏にはない七福神めぐり



柏・大青田の大黒様。左は力石。そばに常夜塔が建っている

だいきくさまは、だれだらう、／おおくにぬしの、みこととて、／くをひらきて、よのひとを、／たすけなされた、かみさまよ。(尋常小学唱歌「大くくさま」)

七福神は、各地で単独信仰されていた。柏では、北部地域に大黒天塔が六基残されている。古いものでは、文政四年(一八二一年)という。五穀豊穰の神として信仰されたもので、道ばたに北向きで建てられている。豊作を願うと共に、村境にあつて疫病除け、また道案内の役も果たしたのだろう。大黒天の代わりに大國主命(おおくにぬしのみこと、大くくとも読める)を祀るところもある。

除災・商売繁盛
恵比寿
 豊穰・福德・厨神
大黒天
 武神・七難即滅
毘沙門天
 福德・芸能
弁財天
 招福安泰
福祿寿
 無病長寿
寿老人
 吉凶占い・福德円満
布袋尊

松戸・流山・印西にはあつて柏にはない。クイズみたいだが、それは七福神である。新世紀のお正月に、と思ひ立つたら市外に行くよりほかはない。しかし、七福神に見放されたといつて柏市民が残念がることもない。室町時代に七福神信仰はできあがつたといわれ、その地区の神社仏閣が相談しあつて作つたのが七福神である。柏では、相談がまとまらなかつたのか相談しなかつたということになる。浅草の七福神は、大震災後にコースが確定したところで、話し合いがまとまらなかつたのか九福神で、福祿寿と寿老人がだぶる。印西では弁財天が二ヶ所である。神様は多ければ多いほどいいのかも。松戸では昭和六十二年から、流山では十年ほど前からで、みんな新しいコース信仰の始まりである。七福神は、「七難即滅、七福即生」というお経からきていて、日本生まれは恵比寿のみである。

逆井漫歩27



①松戸・徳蔵院の寿老人 ②柏・船戸の大黒天